

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年7月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691700019
法人名	医療法人 松風会
事業所名	松風の里
所在地	鹿児島県志布志市志布志町安楽52番地3 (電話) 099 - 472-0911
自己評価作成日	令和5年6月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年7月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ5類に変更になった事で利用者のご家族の面会を再開し、とても喜ばれている。コロナ時は面会制限をしていたが、看取りのご家族には付き添いをお願いし、最期の時間を一緒に過ごしてもらった。各ユニットにiPad購入し、普段から使用する事で利用者も機械に慣れ、動画や音楽を楽しんでいる。毎月発行する松風の里便りや運営推進会議の議事録で普段の様子やヒヤリハット報告を行い、出来る限り情報発信を行っている。敷地内に同法人の医院を併設している。医療連携を図るためGH看護師が毎週利用者全員の健康状態をチェックしている。体調不良や緊急時はすぐに医院に連絡を入れ早期受診の体制が整っている。今年度は介護労働安定センター鹿児島支部から認知症ケア・看取りケア・虐待防止・薬の知識などのオンラインセミナーを利用し、職員全員が視聴する自施設内研修を計画している。

- ・当事業所は、母体医療機関に隣接して建てられているビルの2階・3階に開設されている。コロナ禍のため定期受診はリモートで行っているが、緊急時を含めて24時間の医療連携体制が取られている。また、看護の有資格者が多数配置されており日頃の健康管理や看取りにも対応でき、家族の安心となっている。
- ・家族の面会は制限されているが、「松風の里便り」や個別の近況報告を家族に送付し、利用者を身近に感じてもらえるような支援に取り組んでいる。また、コロナ禍でも看取り期には家族に居室で過ごしてもらえるように配慮し、本人・家族の精神的な安定を図っている。
- ・外出を控える生活の中で、季節を感じる飾りつけをしたり、出前やバイキングで食事を楽しんでもらえるよう工夫している。食材購入等で地域の商店を継続的に利用し地域との付き合いを途切れさせないように取り組んでいる。
- ・理事・管理者が職員の有給休暇の取得を始め働きやすい就業環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	松風の里全体の理念「至誠」はホームの玄関に、ユニット毎の理念は各ユニットのリビングに掲げてある。職員全員が理念を周知し、日々のお世話の中で理念に基づいたお世話が実践できるよう、良く見える位置に設置してある。	理念を事業所内に掲示して、申し送り時に唱和し確認している。カンファレンスで日頃のケアを振り返り、理念に沿ったケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域行事が中止となり、地域の方々となかなか交流する機会が持てない状況である。その中で、六月坂集落に加入し町内会からの回覧板や市報を閲覧する事で地域の様子を把握するようにしている。また、近隣の電気屋や魚屋、スーパーなどを利用し日常的に地域の方と接する事ができるように努めている。	自治会に加入し回覧板で地域の情報を得ているが、コロナ禍のため地域活動はまだ再開されていない。地域の商店利用の継続や近隣に「松風の里便り」を配布して住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍の為、地域の方々との交流が難しい状況である。その為、地域の方がメンバーにおられる運営推進会議（現在コロナ禍の為施設の様子を載せた資料・意見記入用の返信用ハガキの送付）にて可能な限り情報の発信に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議は書面での開催となっている。施設の様子やヒヤリハット等を資料として送付し、また返信用ハガキも同封している。頂いた意見は職員間で共有し、サービスの向上に活かせるよう努めている。	コロナ禍のため書面開催を継続中であり、委員に資料を持参または郵送し事業所の状況等の周知を図っている。委員から当面は書面開催が望ましいとの意見が寄せられているため、9月頃に開催方法を検討予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議のメンバーに介護保険係の方がおられ、施設の様子やヒヤリハットなど資料を送付し知ってもらい、また返信用ハガキにて意見を頂いている。分からない事などはその都度電話などで相談するようにしている。	市の担当者とは、運営推進会議にはがきで返信してもらったり、こまめに電話や窓口に出向いて相談し連携を図っている。市の研修会は今年度から再開され受講している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2回/年、1・7月にカンファレンスの中で施設内研修を行なっている。また、昨年7月は外部の講師を招いての研修会も開催し、職員全員が身体拘束について学びを深められるように取り組んでいる。お世話の中で気になる事があればその都度話し合いを行い、適切なケアが出来るように努めている。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、各ユニット毎の現状の報告等行っている。	指針があり、委員会は法人で3ヶ月に1回、研修会は年2回事業所で実施している。先月から夜間の4点柵を1名実施中であり、早期の解除に向けて検討を重ねている。自分から外に出る利用者はいない。帰宅願望の利用者には職員の方から声をかけて一緒に外出する等、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2回/年、2・8月にカンファレンスの中で施設内研修を行なっている。また、昨年7月は外部の講師を招いての研修会も開催し職員全員が虐待について学びを深められるように取り組んでいる。職員同士、良い関係性を築き、気になる事があればお互い注意しあえるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	1回/年、8月にカンファレンスの中で施設内研修を行なっている。また、成年後見人制度を利用されている利用者様もおり、権利擁護について職員全員が理解を深め円滑な支援ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時、契約書に添って内容の説明を行い、疑問点や不安な事等無いかを尋ね、納得された上で署名・捺印を頂いている。また、その後も心配な事があれば、その都度説明し納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2ヶ月に一回の運営推進会議報告書を、全ての御家族（キーパーソン）に送付している。その中には意見が記入出来る返信用ハガキが同封しており、これまでに、様々な御家族の思いや意見を頂いている。また、日常の生活の中で利用者様の話の聞いたりしながら、運営に関する事等あれば検討し運営に反映出来るよう努めている。	利用者の要望は日常生活の中で把握して対応している。家族には電話・面会時や返信用はがきで要望等を聞き、個々の事例に応じて検討し、家族の要望に沿って対応に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月カンファレンスの中で、職員の意見を聞くようにしている。また、日常的に職員から意見や要望が出しやすいような雰囲気づくりにも努めている。そこで出た意見や要望は上司に報告し、必要があれば運営会議にかけ協議している。運営会議の議事録は電子メールで全ての職員が閲覧出来るようにしてあり、カンファレンスでも報告している。	日頃から意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、必要に応じて法人の運営会議で要望等を協議している。毎月のカンファレンスでは、ケアに関する意見を職員間の意思統一に反映させている。個別相談は理事・管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人一人の生活環境や年齢に配慮し勤務調整を行なっている。希望休に制限をもうけず、可能な限り希望を叶え働く意欲の向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍も影響し外部研修参加が難しい中、外部の講師を招いての研修会を昨年3回/年開催した。また、Webセミナーを利用したの研修も試み、今年度もWebセミナーの計画を立てている。見逃し配信を利用し、出勤時に全ての職員が視聴出来るようにしている。また毎年4月には職員同士ペアになりお互いを評価し、新人職員には担当職員をつけ評価するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍の為、研修等少ない中参加できた時には、他施設の方との交流を持ち情報交換に努めている。収集した情報は、施設へ持ち帰り他職員へ伝達しサービスの質の向上に務めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問を実施しており、事前に御家族・ご本人・施設職員等から身体・生活状況など情報を収集している。可能であればご本人から不安な事等伺い話をする事で、安心して入居出来るように努めている。入居時は、その情報をもとに居室の環境を整えたり接する事で良い関係性が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前訪問を実施しており、事前に御家族や施設職員等から不安な点や要望、またご本人の身体的状態や生活環境等伺い話をするようにしている。それに基づきケアプランを作成し、入居時担当者会議を開催。その際、御家族の話を聞き、より良い関係性が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前訪問時、ご家族・ご本人・施設スタッフ等から得た情報をもとに、当施設職員間で話をしケアの方向性を決定している。今どのようなお世話が必要であるかを見極め、また入居後1ヶ月でケアプランの見直しを行い再検等するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の生活歴や残存機能を把握し、職員と一緒に洗濯物をたたんで頂いたり、テーブルを拭いてもらうなどお手伝いをして頂いている。職員は利用者様を人生の先輩として敬い、分らない事を聞いたりしながら料理を作ったり、会話やテレビを楽しみ一緒に過ごし良い関係性が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活歴や最近の様子・嗜好品など、ご本人から伺えない時は御家族から情報を得てお世話に繋げている。担当者会議では、毎回御家族の要望を伺い可能な限りケアに反映させている。また、その都度必要な物があれば持って来て頂いたり、他科受診などは御家族の協力を頂き受診してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為外出する事が難しく、面会も制限されている状況である。現在はリモート面会を行っており、面会があった際には難聴の方はヘッドフォンを使用したり、職員が間に入って面会するなど様子が伝わるようにしている。また、ご家族へ毎月松風の里便りと2ヶ月に1回は個人のお便りを発送し日頃の様子を伝え、関係性が途切れないように努めている。	家族との面会はリモート面会に制限されており、事業所から毎月「松風の里便り」を、2ヶ月に1回個別の近況報告に写真を添付して送付し、家族との関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様お一人お一人の生活歴や性格、身体機能の状態を把握しリビングでの席位置を決めている。また、トラブルにならないようにその都度席位置を変更し、快適に過ごせるように努めている。寝たきりの方も、リクライニング式車椅子を使用しリビングで皆さんと過ごして頂き、利用者様同士がお互いを手伝い、声を掛けるなど良い関係性が築けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の為、施設を訪問する事が難しい状況である。しかし、必要があれば相談に応じ対応出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前から入居時、その後も日々の関わりの中でお一人お一人の思いを探り意向や要望を把握するようにしている。また、ご家族から担当者会議や面会時に暮らしの要望を伺い可能な限り、ケアプランに反映させている。思いを表出できない方は、仕草や表情から思いを汲み取り、お世話に繋げている。4・10月にパーソンセンタードケアについてカンファレンスの中で勉強会を行い、利用者様中心のケアが出来るように努めている。	日常の会話や仕草・表情等から本人の思いを把握するように努めている。言葉等の表出が困難な場合は、家族や入居前の利用サービス職員からの情報を参考に、思いをくみ取るように努めて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問時、ご自宅の様子を拝見したり、ご家族やご本人から情報を得ている。施設からの方は、施設職員や同席されたご家族、またはサマリーなどから情報を収集し、入居後にもご家族の面会があった際やご本人からも話を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からご自宅での生活の様子を伺ったり、施設職員より施設での様子を伺うようにしている。また、日々のお世話の中で、残存機能や生活パターンを把握したり、お一人お一人の今の心身の状態を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前訪問時、ご家族・ご本人・施設職員等から情報を収集し初回暫定ケアプランを作成。他職員と情報を共有しお世話を開始している。また、入居後1ヶ月で、お世話を通して本人の様子を把握しケアプランの見直しを行っている。毎月、担当職員にてモニタリングを行いカンファレンスで話し合いをし、今の状態に即したお世話と統一したケアが行えるように努めている。6ヶ月毎のケアプランの見直し時には、事前にご家族へ連絡し要望等伺いケアプランに反映させ、また、状態に変化があればご家族へ報告し、区分変更を申請している。	本人や家族の希望等を把握し、職員の意見を入れて介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎に計画を見直ししている。状況変化時にも見直し、現状に合った介護計画にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランが綴じてある個別の台帳があり、ケアプランに沿って日々の記録が行えるようにしている。各勤務帯で色を変えたり、看護師による医院受診時は緑（医療連携看護師の記録は別綴り）、ヒヤリハットは青（詳細は別綴り）で記録する等見やすい工夫をしている。また、ケアチェック表には毎日のバイタルサインや排便状態、ケア内容のチェックを行い、月末のモニタリング時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族・ご本人の希望があれば、施設職員が散髪を行なっている。また、食事用エプロンや防水シート、入れ歯用洗浄剤や歯ブラシ等ご家族に購入をお願いしていた物を施設に置き、希望に応じていつでも出せるようにした。必要時には他科受診の付き添いも行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、出向いての地域資源の活用が難しい状況である。その中で、地域の魚屋さんから3回/月お刺身やフライなどの配達をしてもらったり、牛乳屋さんからの牛乳の購入や、近くのお店からのお弁当やオードブル料理の購入等行いながら、利用者様と地域の様子を踏まえ話題にするなど活用させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご家族・ご本人へ確認し併設されている医院をかかりつけ医としている。現在はコロナ禍の為、看護師によるリモート受診を行なっており、臨時受診時は看護師が付き添って医院受診を行なっている。急変時には、医院と連携を図り早急に対応しその都度ご家族へ報告している。協力機関として西国領歯科医院・曾於医師会立病院がある。	契約時に確認し、全員母体医療機関をかかりつけ医に希望している。2週間に1回のリモート受診や緊急時を含めた24時間の医療連携体制が築かれており、職員に看護の有資格者が多数配置され日常の健康管理も十分行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常生活のお世話の中で気付いたことを、当日出勤の看護職員に報告し、看護職員は緊急性に応じて医院受診や医院への報告を行うようにしている。また、看護職員は必要に応じ介護職員へアドバイスを行い、安全な介護が行えるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった時には、かかりつけ医より診療情報提供書を、施設からは介護サマリーを作成し、ご家族と共に施設職員が付き添って行き、必要な情報が速やかに提供出来るように努めている。入院が長くなる時には、職員が病院を訪問し状態を伺い、退院時期の調整など行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、契約書の説明と共に「重度化した場合の対応に係る指針・看取り指針」の中で終末期についての話をしている。また、終末期に関する意思確認書にて終末期のケアの方向性についても確認している。2回/年、6月・12月にはリビングウィルを行い、定期的にご本人の意思確認も行なっている。状態が悪くなった時には、必要に応じてかかりつけ医よりご家族へムンテラを行い、今後の方向性を決定し、看取り介護計画書を作成し、ご家族へ説明し看取り加算をとっている。	契約時に重度化等の場合の対応について指針で説明し、同意書をもっている。状況変化時に医師から家族に説明し、家族の意向を確認し意向に沿って支援に取り組んでおり、看取り期は家族の居室面会も実施している。職員の看取り介護研修を年2回実施し、看取り介護の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時介護職員は、看護職員へ直ちに報告し対応するようにしている。血圧計、吸引器等の置き場所を把握し、指示があればすぐに持ってこれるようにしてある。また、日常的に介護職員は看護職員より基礎的な知識を学ぶようにしている。事故発生フローチャートを作成し、事故発生時は全ての職員がスムーズに動けるように電話機の前に掲示してある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での消防・避難訓練を2回/年実施している。コロナ禍の為、地域住民を呼んでの訓練は難しく、施設職員のみでの実施となっている。また、昨年12月は消防署立ち合いの訓練を予定していたが、当日消防署の都合により施設内での訓練となった。また、スプリンクラーや防火扉、消火栓・消火器の設備があり、訓練時使用している。また、メガホン、ライト付きヘルメット・マスクも準備しており、必要時いつでも使用出来るようにしている。避難経路や非常口付近には物を置かず、非常時スムーズに避難出来るように努めている。消防訓練の様子は、運営推進会議の資料にして地域住民のメンバーに送付し報告している。	年2回避難訓練を夜間想定で実施し、消防署の立ち合いが1回ある。自動通報装置に近隣住民3～4名の登録協力があるなど、地域との協力体制が築かれている。備蓄は3日分の水・ご飯・缶詰・レトルト食品・カップ麺などの食料やカセットコンロ・発電機を準備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の先輩として敬い、お一人お一人の生活歴や性格を把握し、プライドを傷つける事の無いように声掛けを行なっている。排泄の声掛けは周りの方に聞こえないように小さな声で行ったり、自尊心や羞恥心に配慮した言葉かけに務めている。申し送りや話し合いの時には、テレビや音楽を流したり、離れたテーブルで行うなど聞こえないように配慮している。	誇りやプライバシーを損ねないよう、さん付けで呼びかけ、入室時やケア実施前には声掛けを行ない、ベッド上のオムツ等の交換時は羞恥心にも配慮して戸を閉めて行っている。申し送り時は聞こえないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のお世話の際は必ず声掛けし、ご本人の意思を確認した上でお世話するようにしている。入浴準備などご自分で出来る方は好みの着替えを準備して頂いている。また、思いを表出できない方は、ささいな表情や仕草を汲み取り、これまでの生活歴や性格などを考慮し自己決定の手助けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでのお一人お一人の生活パターンを把握し、その方に合わせたお世話をするように努めている。リビングや居室等ご自由に過ぎて頂き、就寝時間もその方に合わせて休んで頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご自宅から持参された服を着て頂き、可能な方はご自分で服を選んで着てもらっている。また、ご家族から以前好んで着ておられた服を伺い着てもらったり、散髪時には好みの長さを伺いカットするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の嗜好品を尋ね食事に取り入れたり、嚥下状態に応じ食べやすい形状にし提供している。また、旬の食材を頂いた時には利用者様に見て頂き、美味し料理の作り方を尋ねたりしている。出前料理はメニューを見て選んで頂いたり、職員手作りのバイキング料理や目の前で鍋やホットプレート料理を見て楽しんで頂いている。普段の食事でも、手作りにこだわり料理を作るようにしている。	職員が、利用者の好みを取り入れた献立を作成し食べやすい形態で提供している。利用者も一緒に下ごしらえや下膳を行っている。季節の行事食や出前の料理、バイキング等で食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の状態や能力に合わせた食事形態にて提供している。また、午前午後にティータイムを設け、声掛けや工夫（ゼリーや甘くする）しながら水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ブラッシングや含嗽を行ったり、自己にて口腔ケアができない方はスタッフにてガーゼで口腔内の拭き取りを行い口腔内の清潔に努めている。また、義歯の方は夕食後義歯を預かり洗浄液に浸け消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄チェック表を参考に、お一人お一人の排泄パターンを把握し、その方の状態に応じた排泄介助を行っている。トイレに行かれない方には声掛けしトイレまで付き添い、寝たきりの方は時間でオムツ交換を行っている。その方の排泄回数や尿量を把握し、オムツの種類を検討し適切な排泄介助が行えるように努めている。	個々の排泄パターンに応じた声掛け・誘導を行って、昼間はトイレでの排泄を基本に支援しており、自立の場合も見守り・確認をしている。オムツの使用を減らすために、個々に適切な排泄用品を検討し、夜間はポータブルトイレも利用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居前から入居後を通して、その方の排泄パターンを把握し排便コントロールを行っている。身体を動かしたり、牛乳や水分の補給、植物性の食品の摂取や腹部マッサージなどを行うなどその方に応じた対応をしている。また、かかりつけ医へ相談し下剤の処方もしてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	3回/週入浴を行なっている。冷暖房を使用し快適に入浴して頂けるようにしている。また、ゆっくり入浴をして頂く為に、全ての利用者様にお湯にしっかり浸かって頂き、希望を聞きながらお湯に浸かる時間を設定し温まってもらっている。音楽を聴いたり、職員と会話をしたり楽しみながら入浴できるように努めている。入浴を嫌がられる方は、タイミングを見て誘導の工夫を行なっている。	週3回午前中に入浴支援を行っている。全員に湯船での入浴を楽しんでもらえるよう2人介助や希望による同性介助も行っている。嫌がる場合は、タイミングを見て声掛けし入浴してもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣やその時々希望に応じて休んで頂いている。眠たくなるまで職員と話したり、リビングや居室でテレビを見たりして過ごされている。また、空調や衣類、寝具の調整を行い快適に休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員は看護師資格者より内服薬の説明を受け、分からない事があれば聞くようにしている。定期受診で内服薬の変更があれば他職員へ報告し、また利用者様に変化があれば看護師資格者へ報告し必要があれば主治医へ相談している。誤薬が起きないように、名前を大きく表示したり写真を貼り一目で分かるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活背景を把握し、好きな事や出来る事を楽しんで頂いている。テレビや音楽鑑賞、新聞や本の読書、塗り絵や数字盤並べ、職員や利用者様同士の会話など楽しんで頂き、洗濯物たたみや台拭き、味見などのお手伝いも職員と一緒にしてもらっている。また、毎月行事を企画し、出前・茶話会・夏祭りなどいつもと違った雰囲気でも過ごして頂き、気分転換になるように工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為外出が出来ていない状況である。現時点では、面会・医院受診ともリモートで行っている。その為、日常的には難しいが、少しでも屋外で過ごして頂けるよう、屋上茶話会を企画したりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、ご自分でお金を所持されている方はいない状況である。必要な物や欲しい物があれば、ご家族へお願いし購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される方は状況に応じて、家族へ確認し電話をして頂くようにしている。また、ご家族から頂いた手紙やハガキはご本人に渡し読んで頂いている。面会はリモートであるが、耳の遠い方はヘッドフォンを使用し直接会話が出来るようにしている。遠方の方が必要があればご家族の携帯からリモートで様子を見て頂くなど可能な限りの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍の為、シールドの使用と換気、室温湿度の調整に努めている。リビングは季節ごとに職員手作りの置物や壁飾りを変え季節を感じて頂き、音楽やテレビを流しいつでも見られるようにしている。テーブルの席位置は、良く話される方や静かな方、テレビを見られる方など配慮している。廊下に各月ごとの行事の写真を掲示し利用者様が見れるようにしている。また、手すりを設置し歩行時使用出来るようにしている。居室は、馴染みの物を持って来て頂いたり、写真を貼ったりして落ち着ける空間づくりに努めている。	リビングは空気清浄機やエアコン・カーテンで室温や日光等を適度に調節し、換気は窓を開けて行っている。季節の飾りつけや花で季節を感じてもらえるように取り組んでいる。一人ひとりが好きな場所でくつろげるようソファを配置したり、ベランダで日光浴をしてもらう等の工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、気の合う方同士隣りに座って頂いたり、自由に居室に戻られ過ごされたり、居室にて他の方と談話されるなど思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前訪問時、馴染みの物を持って来て頂いても良い事を説明している。自宅から持って来て頂いた物は、ご本人と話しながら設置し落ち着ける空間づくりに努めている。使い慣れた毛布やクッション、テレビ、御主人の遺影など様々な物を持って来て頂いている。	居室には、ベッドや洗面台・床頭台・エアコンが備えてあり、寝具はリースである。本人が使い慣れた毛布・タオルケット・テレビ・タンス・ラジカセ・写真・ぬいぐるみ等を身の回りに置いて安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカー使用の方や独歩の方が安全に歩行出来るように、廊下には手すりを設置し、物を置かないようにしている。また、居室とリビングを自由に行き来できるように、ご家族へ了解を得て、居室入口に大きく名前を貼りご自分の部屋が分かるようにしている。居室入口のドアノブが開けにくい方は、別の取っ手をつけるなど工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない